

防災コラム

危機管理課

第7回

備蓄を見直しましょう

まず考えること

災害への備えとして「備蓄品」を考えるとき、大事な場面が2つあります。1つ目は、身の安全を確保するために、建物の外の安全な場所に避難する場面。2つ目は、災害発生後に自宅等で避難生活を行う場面です。

安全な場所に避難すること

災害発生直後、まず状況を把握して身の安全を確保する必要があります。被害の状況によつては、建物からすぐに避難しなければならぬ場合や、反対に建物にとどまらない場合、どのような場合があります。そのとき、どのようなことが考えられるでしょうか。床には割れた食器が散らばっているかもしれません。電気が使えず真っ暗で、災害情報の収集が困難になるかもしれません。また、すぐには避難できず、食糧と飲料水

が必要になるかもしれません。このように考えてみると、枕元や手に取りやすい場所に靴や軍手、携帯ランタン、充電器付きラジオ、チョコレート、飴、ナッツやペットボトル飲料等の非常食を一つの袋に入れておくことが有効です。

避難生活で忘れがちなこと

避難生活で考えておいた方がよいことは、食糧と飲料水の確保のほか、トイレの対応です。人間は1日5回以上トイレに行くと言われていています。大きなビニール袋や破った新聞紙などで代用することもできます



非常用トイレの体験

が、非常用トイレとその補充用品をそろえることが有効です。また、これまでの災害でも、流れない汚物の処理をどうするかが大変な問題となりました。それをどこに保管しておくか、あらかじめ隣近所と相談しておくことも大切でしょう。

備蓄品をそろえるときは、どうしても長期保存できる食べ物に目がいきがちです。しかし、様々な場面を考え、あらかじめ「我が家の備え」を家族や近所の人と話してみると、意外な発見があるかもしれません。このコラムをきっかけに話し合ってみてはいかがでしょうかでしょう。